

- 問1 鎌倉時代初期の武士社会において、親の領地を複数の子に分けて継承させる相続方法を何と称しますか。(2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 分割相続
 2. 単独相続
 3. 永代売買
 4. 地頭請
- 問2 鎌倉時代に普及し、日本の食生活や農業構造に大きな影響を与えた「二毛作」の定義として、正しい説明はどれですか。(2017年 鳥取公立入試 類似)
1. 同じ耕地において、一年の間に米と麦など二種類の異なる作物を栽培すること。
 2. 同じ耕地において、一年の間に米を二回栽培すること。
 3. 広大な土地を複数の区画に分け、数年ごとに栽培する作物を変えること。
 4. 一つの耕地で、複数の農家が共同して同じ作物を育てること。
- 問3 次の1～3は、日本の文化史における重要なできごとについて説明したものです。これらを年代の古い順に並べ替えたものとして正しいものを選びなさい。1. 狩野永徳によって、城郭を飾る豪華な障壁画が描かれた。2. 吉田兼好(兼好法師)によって、随筆である『徒然草』が執筆された。3. 松尾芭蕉によって、東北・北陸を巡った旅の記録である『おくのほそ道』が記された。(2019年 香川公立入試 類似)
1. 2 → 1 → 3
 2. 1 → 2 → 3
 3. 2 → 3 → 1
 4. 3 → 2 → 1
- 問4 鎌倉時代後半、元寇の防衛に功績のあった御家人が生活に困窮し、幕府への不満を強めた経緯を説明した記述として、最も適切なものはどれですか。(2020年 大分県公立入試 類似)
1. 自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。
 2. 幕府が全国の武士に土地を寄進するよう命じたため、自立した経営ができなくなった。
 3. 御成敗式目によって土地の相続が厳しく制限され、家を維持することが困難になった。
 4. 元の軍隊が九州の大部分を占領し、御家人の所領が直接的に奪われた。
- 問5 源頼朝の死後、鎌倉幕府において北条氏が世襲し、将軍を補佐して幕府の政務を統括した役職の名称として正しいものを選択してください。(2023年 島根公立入試 類似)
1. 執権
 2. 管領
 3. 摂政
 4. 内大臣
- 問6 鎌倉時代初期の武士の社会において、一族の長である「惣領(そうりょう)」を中心に団結を強める中で、領地などの財産の継承はどのように行われていましたか。当時の社会状況として最も適切な説明を選びなさい。(2025年 埼玉公立入試 類似)
1. 一族の男子だけでなく女子にも領地を分け与える分割相続が行われていた。
 2. 一族の長男のみがすべての領地を継承し、他の兄弟や女子には財産を渡さない単独相続が行われていた。
 3. 土地はすべて天皇のものであるという公地公民の原則に基づき、一定期間ごとに国へ返還されていた。
 4. 恩賞として与えられた土地を、功績のあった家臣にのみ一代限りで貸し出す制度がとられていた。
- 問7 鎌倉時代において、源頼朝の死後に幕府の実権を握った北条氏が代々世襲した、将軍に代わって政治を司る役職を何と称するか、次の中から選びなさい。(2018年 茨城県公立入試 類似)
1. 執権
 2. 管領
 3. 老中
 4. 関白
- 問8 鎌倉時代に制定された「御成敗式目(貞永式目)」について、その制定の背景や内容として正しい説明はどれですか。(2026年 富山公立入試 類似)
1. 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。
 2. 江戸幕府の将軍が、全国の大名を統制するために、城の修理の制限や参勤交代の義務などを定めた。
 3. 聖徳太子が、官吏としての心得を説くとともに、仏教を敬い天皇の命令に従うことを求めて定めた。
 4. 徳川吉宗が、裁判の基準を統一して能率的に処理するために、過去の判例などをまとめた法律として定めた。
- 問9 鎌倉時代の将軍と御家人の間には、土地を媒介とした強力な主従関係が存在していました。将軍が御家人の所領を保証したり、新たな所領を与えたりする行為を「御恩」と呼ぶのに対し、御家人が将軍への忠誠を示すために、戦時に軍役を担ったり、京都や鎌倉での警備任務(番役)を遂行したりする義務を何と呼びますか。(2014年 愛媛公立入試 類似)
1. 奉公
 2. 寄進
 3. 下地中分
 4. 守護の設置
- 問10 13世紀初頭にモンゴルの諸部族を統一し、優れた機動力を持つ軍団を率いて中央アジアなどを征服し、広大なモンゴル帝国を築き上げた人物は誰ですか。(2015年 山口公立入試 類似)
1. チンギス・ハン
 2. 秦の始皇帝
 3. コロンブス
 4. ナポレオン
- 問11 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げた「承久の乱」ののち、幕府が朝廷の動きを常に監視し、あわせて西国の武士を統制するために京都に設置した機関として正しいものを、次から選びなさい。(2021年 宮城県公立入試 類似)
1. 六波羅探題
 2. 管領
 3. 大宰府
 4. 京都所司代
- 問12 鎌倉時代の文化は、新興の武士階級の好みを反映し、素朴で力強いという特色を持っています。この時代の代表的な建築物である東大寺南大門について、その建立の背景や特徴を説明した文として最も適切なものを選択肢から選びなさい。(2021年 佐賀公立入試 類似)
1. 重源という僧が中国から導入した大仏様という様式を用い、内部には運慶や快慶による力強い彫刻が置かれた。
 2. 足利義満が京都の北山に建立したもので、各層で建築様式が異なる金箔を貼った豪華な建物である。
 3. 聖武天皇の時代に建てられ、高床式の校倉造によって天皇ゆかりの品々や宝物が保管された。
 4. 姫路藩の拠点として築かれ、白鷺城とも呼ばれる美しさや高い防御機能を兼ね備えた城郭建築である。
- 問13 13世紀に起きた「元寇」に関連して、長崎県松浦市の鷹島神崎遺跡から軍船の船体やいかり、武器などが発見されたことは、当時の歴史的状況についてどのような事実を裏付けていますか。最も適切な説明を選びなさい。(2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 二度の侵襲において、元軍の艦隊が暴風雨(台風)に見舞われ、多くの軍船が海中に沈没したという記録を実証している。
 2. 元が日本を占領した後に、松浦市に大規模な軍事拠点や港湾施設を建設して長期間駐留していたことを示している。
 3. 日本側の武士が、元の優れた造船技術や武器を模倣するために、捕らえた軍船を解体して調査していたことを示している。
 4. 元が日本との平和的な交易を目的として、船内に積んでいた武器を儀礼として海に投げ捨てたという習慣を裏付けている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 分割相続	鎌倉時代初期の武士（御家人）の間では、親の領地を複数の子に分けて譲り渡す方法が一般的でした。この制度では、男子だけでなく女子にも領地を分け与える権利が認められていました。しかし、世代を重ねるごとに一人あたりの領地が細分化されて減少していくため、のちに御家人の生活が困窮する一因となりました。
問2	答え 1 同じ耕地において、一年の間に米と麦など二種類の異なる作物を栽培すること。	二毛作は、一つの土地で一年のサイクルの中に異なる種類の作物を組み合わせて栽培する手法を指します。日本では鎌倉時代に西日本から始まり、次第に南北朝・室町時代にかけて全国へと普及していきました。主に夏に水田として米を作り、水を引き抜いた後の冬の田（裏作）で麦を作る形態が一般的でした。なお、一年のうちに同じ作物を二回作るとは「二期作」と呼ばれ、二毛作とは区別されます。
問3	答え 1 2 → 1 → 3	『徒然草』は鎌倉時代末期（14世紀前半）に書かれました。狩野永徳の障壁画は織田信長や豊臣秀吉の時代、すなわち安土桃山時代の桃山文化を代表する作品です。松尾芭蕉の『おくのほそ道』は江戸時代元禄期の元禄文化を代表する紀行文です。したがって、鎌倉時代から南北朝時代、安土桃山時代、江戸時代という歴史の流れに沿った順序となります。
問4	答え 1 自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。	鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人の所領を保証する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。しかし、元寇においては御家人が重い負担を負って奉公したにもかかわらず、幕府が十分な「御恩（恩賞）」を与えることができなかったため、この互恵的な関係が崩壊しました。これが御家人の幕府離れを招き、幕府滅亡への遠因となりました。
問5	答え 1 執権	北条氏は、源頼朝の妻である政子の実家であり、頼朝の死後に「執権」という役職に就いて幕府の実権を握りました。これを執権政治と呼びます。管領はのちの室町幕府において将軍を補佐した役職であり、摂政は天皇が幼少の間に政務を代行する朝廷の役職です。
問6	答え 1 一族の男子だけでなく女子にも領地を分け与える分割相続が行われていた。	鎌倉時代初期の武士社会では、惣領が親族を統率して軍役や奉公を果たしていました。この時期、所領の継承は子や女子にも分け与える「分割相続」が一般的であり、女性が地頭（じとう）として土地を管理し、幕府から権利を認められるケースも存在しました。しかし、元寇などの影響で生活が苦しくなると、領地の細分化を防ぐために、後の時代には長男がすべてを継承する単独相続へと変化していきました。
問7	答え 1 執権	鎌倉幕府を開いた源頼朝の死後、有力な御家人であった北条氏が政治の主導権を握りました。北条氏は将軍を補佐しつつ、実際には幕府の最高責任者として振る舞う「執権」という立場を世襲し、北条泰時の時代に制定された御成敗式目などを通じて独自の政治体制を確立しました。
問8	答え 1 執権の北条泰時が、御家人たちの中で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。	鎌倉時代初期の武士の間では、土地の境界や所有権をめぐる紛争が絶えませんでした。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武士の実情に合わせた裁判基準を成文化することで、幕府の裁判に対する信頼を高めようとしていました。この法律は、後の室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。
問9	答え 1 奉公	鎌倉幕府の根幹となった「御恩と奉公」の関係において、御家人が将軍に対して果たすべき義務が「奉公」です。具体的には、戦乱の際に自備の武器や軍勢を率いて駆けつける軍役や、平時の警備などが含まれます。これは、将軍が御家人の先祖伝来の土地を保証するなどの「御恩」を与えることに対する、双務的な代償としての性格を持っていました。
問10	答え 1 チンギス・ハン	13世紀の初めにモンゴル高原の諸部族をまとめ上げたチンギス・ハンは、強力な騎馬軍団を編成して中央アジアを征服しました。彼の建国したモンゴル帝国は、のちにユーラシア大陸の大部分を支配する大帝國へと成長し、東西の文化交流を促進しました。
問11	答え 1 六波羅探題	承久の乱で朝廷側に勝利した鎌倉幕府は、乱の再発を防ぐために京都に強力な出先機関を置く必要がありました。それまでの京都守護を改組・強化する形で設置されたのが六波羅探題であり、北条氏の有力者がその職に就いて、朝廷の監視、裁判、西日本の統治という重要な役割を担いました。
問12	答え 1 重源という僧が中国から導入した大仏様という様式を用い、内部には運慶や快慶による力強い彫刻が置かれた。	鎌倉時代は武士が政治の実権を握った時代であり、文化面でも大陸（宋）との交流や武士の好みを背景に、力強さを追求する傾向が見られました。東大寺南大門は、巨大な部材を露出させた合理的な構造である「大仏様」を採用しており、これは重源が宋の技術を学んで導入したものです。門内の金剛力士像も、当時の「慶派」と呼ばれる彫刻家集団による、筋肉の躍動感などを表現した写実的な作品です。
問13	答え 1 二度の侵攻において、元軍の艦隊が暴風雨（台風）に見舞われ、多くの軍船が海中に沈没したという記録を実証している。	鷹島神崎遺跡から発見された軍船の残骸や武器は、二度の元寇のうち、特に弘安の役において元軍の艦隊が暴風雨に遭遇し、壊滅的な被害を受けたことを物理的に証明する貴重な資料です。当時の文献に残る「神風」による元軍の撤退という歴史的事実を、水中考古学の視点から裏付けるものとなっています。